

健やか

紙上 診察室

五十代男性です。数年前から左の下まぶたからほおにかけてけいれんが時々起こっています。左の顔半分に頻繁に生じるようになりました。最近では、初対面の人からも指摘されるほどの強いけいれんが度々生じるようになり、仕事中に左目が開かなくなることもあります。片側顔面けいれんと診断され治療を勧められましたが、今すぐ始めた方がいいのでしょうか。

(鹿児島市・W)

片側顔面けいれん

治療開始は本人判断

起こることが特徴です。初期には緊張したときなどに時々みられるのですが、徐々に進行して、目や口を開けることができないほどになることもあります。けいれんに合わせた耳鳴りや、軽いまひを生じることもあります。

起ることが特徴です。初期には緊張したときなどに時々みられるのですが、徐々に進行して、目や口を開けることができないほどになることもあります。けいれんに合わせた耳鳴りや、軽いまひを生じることもあります。



花谷 亮典 講師 鹿児島大学病院 脳神経外科

問 顔面けいれんについて教えてください。

答 顔半分に生じるけいれんを片側顔面けいれんと呼びます。脳血管が顔面神経に接触して、異常な興奮が誘発されるのが原因となります。

中高年以降に症状が出るものが多く、無意識なけいれんが目の周囲から始まり、次第に口元へと広がります。けいれんは、眠っていても

起こることが特徴です。初期には緊張したときなどに時々みられるのですが、徐々に進行して、目や口を開けることができないほどになることもあります。けいれんに合わせた耳鳴りや、軽いまひを生じることもあります。

起ることが特徴です。初期には緊張したときなどに時々みられるのですが、徐々に進行して、目や口を開けることができないほどになることもあります。けいれんに合わせた耳鳴りや、軽いまひを生じることもあります。

問 症状の経過から診断が可能です。まれにですが、圧迫の原因が血管ではなく腫瘍や動脈瘤によることもあるために、MRIなどで頭蓋内を確認する必要があります。

また、MRI検査によって、神経を圧迫している血管を確認することもできます。

問 治療法について教えてください。

問 どちらの治療が良いのでしょうか。

相談は詳しい症状と病歴に住所、氏名、年齢、性別、電話番号を書いて社会部「紙上診察室係」まで。紙面では匿名で紹介します。あて先はページ下を参照してください。

問

答 いずれの治療法も非常に有効ですが、それぞれに長所短所があります。ボツリヌス毒素の注射治療は体への負担は少ないですが、効果が一過性のために、三〜六月おきに注射を繰り返す必要があります。

問

答 飲み薬による治療はあまり効果がありません。この病気に対して、現在広く行われている治療法は二つあります。

一つは、けいれんを生じている表情筋にボツリヌス毒素を注射する方法です。もう一つが、微小血管減圧術という、神経と血管の接触を解除する外科手術です。

問 治療はいつ行つのがよいのでしょうか。

答 片側顔面けいれんは直接生命にかかわるものではないために、治療をするかしないかは困っているご本人の判断によります。治療を受けるきっかけはさまざまで、けいれんを気にして人前に出づらくなった、気に障っていららるることが多くなった、目が開けられず運転に不自由する、口が開けられなくて食事

に困るなどがあります。

問

答

治療に際しては、経験の豊富な神経内科医、脳神経外科医にご相談されることをおすすめします。